

沿革

熊本県曹洞宗青年会は、当時まだ本会の組織を持たない本県に、曹洞宗青年会九州大会開催の依頼があり、天草郡天草町隣峰寺、下川忠厚老師(当時)が責任者となり東奔西走、会の発足の同志を求めて県下各地を駆け巡り、老師の情熱に大勢の同志が参集し、九州大会は大盛況の内に終えることができました。



熊本県曹洞宗青年会

現在の活動

本青年会の活動としては、毎年開催される夏休み子ども禅の集い、年に数回発行される熊曹新聞、年末のカレンダー作成事業等が主なものとして挙げられます。また、ハンセン病国立療養施設「菊池恵楓園」で年に2回行われる宗務所主催の法要にも参加しています。

本青年会の活動として、毎年開催される夏休み子ども禅の集い、年に数回発行される熊曹新聞、年末のカレンダー作成事業等が主なものとして挙げられます。また、ハンセン病国立療養施設「菊池恵楓園」で年に2回行われる宗務所主催の法要にも参加しています。

このことが起点となり、本青年会の正式発足の気運が一気に高まり、昭和55年、まさにその下川忠厚老師を初代会長に迎えて本会は発足しました。暗中模索の中スタートした本会も徐々に組織化されてゆき、現在、45歳までの青年僧で運営・活動しています。

九州管区の各青年会は、「九州は一つのスローガン」の下、九州曹洞宗青年会の事業に積極的に参加・協力しています。平成15年には、その九曹

青の第11期会長に本青年会より、天草市天草町隣峰寺、葛籠貫喜昭師が就任しています。

全曹青への出向も、ある意味伝統として引き継がれており、平成11年には本青年会より、上天草市松島町地藏院、荒木正昭師が第13期会長に就任しています。その後も、IT委員会委員、青少年教化委員会委員長、ボランティア委員会委員、広報委員会委員と、現在に至るまで脈々と全曹青での活躍が続いています。

昭和55年	足長	梅本実道
副会長	藤岡弘龍	
事務局長	田中光顕	
会計	鳥羽瀬哲也	
会員数	37名	

仮設の法堂にて気迫のこもった法戦式も披露するなど、とても内容の濃いものとなりました。

その他の活動としては、インド仏蹟巡拝を、この10年ほどの間に2回行っています。

九曹青の事業にも積極的に参加しており、毎年各県交代で行われるソフトボール大会には、全会員がユニフォームを作成して参加し、共に汗を流して交流を深めています。



夏休み子ども禅の集いにて坐禅の様子



平成21年夏休み子ども禅の集いにて



インド旅行にて